みえ市民活動・ボランティアニュース

ひろげる つなぐ かえる

2014
6
2014年5月25日発行
通巻186号

P1-2 熱中手帖。
-これまで×これから- Vol.23
特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会
三重正会員団体 ピカリン
P3-4 平成25年度
みえ市民活動ボランティアセンターの事業報告
P5 募集とご案内、助成金情報
P6 クローズアップ協創のヒント集、活動のぞき見隊
P7 マイNPO物語、NPO・ボランティア私の一冊 ほか

熱中手帖。

－これまで×これから－ vol.23

発達障害を持つ子どもたちが社会でより良く生活をしていくために

特定非営利活動法人　アスペ・エルデの会

三重正会員団体　ピカリン

三重県で発達障害サポートを考える

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会とピカリンの関係について教えてください

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会は東海４県を対象に、発達障害児・者に対する「生涯発達支援システム」を活用しながら活動している団体です。４県にはそれぞれ正会員団体があり、ピカリンもそのうちの１つです。ピカリンは、三重県内大学の学生ボランティアなどと共に活発に活動を展開していましたが、表立った会員の新規募集を控えていた時期がありました。というのは、既存会員である子どもたちが成長しそれに伴った活動内容が青年期・成人期のニーズに合わせたものに移行していったためです。

しかし、三重県に住む発達障害に悩む低学年のお子さんとその親御さんへの支援活動を展開しようという想いのもと、運営を共に担う方たちを募集しました。アスペ・エルデの会は愛知県名古屋市に本部があり、三重県で活動を展開するにあたっては、県内の悩みやニーズを共有し共に活動する方が必要不可欠だったのです。そこから、「アスペ・エルデの会　正会員団体　ピカリン」が新たにスタートしました。

障害児・者の当事者は親子

子どもだけではなく、親御さんをサポートするシステムもあるんですよね

アスペ・エルデの会からディレクターと呼ばれる専門家（臨床心理学の専門家・言語聴覚士など）を派遣していただいています。また、地元の教員や保育士の方も手伝ってくださることもあります。

小学校１年生～中学校３年生の発達障害の子たちはピカリンキッズと呼び、学習会や例会、合宿等を通じて学習スキルや社会的スキルをトレーニングしています。ピカリンキッズが高校生以上になるとピカリンサポーターズとして、それぞれ将来につながるトレーニングを行ったり、ボランティアとして小さい子どもたちのサポートを行うことで就労・就職に必要なスキルのトレーニングを行ったりしています。

就労後の社会人グループでは、社会人となった当事者が支援者と共に近況を話し合い、食事やカラオケなどに出かける活動や就労後のメンタルケアなども行います。

子どもたちには「トレーニングをしている」という意識は全くなくて、ただただ楽しいという感覚で取り組んでくれています。実際「みんなと遊ぶのが楽しい」「みんなと触れ合うのが楽しい」と言っています。だからこそピカリンに行きたがるし、自分より大きい人たちと接して「この人みたいになりたい！」という思いが出てくるのだと思います。

親御さんへのサポートは、お互い近況報告をし合ったり、面談やメール相談等を通じて専門家の先生や他の親御さんの体験談を聞ける場づくりをしています。

発達障害児・者を取り巻く環境の問題点として、子どもだけでなく親も孤独に陥ってしまう、という点があります。要因としては“悩みを共有すること

ができない”ということが挙げられます。発達障害児・者のお子さんを持つ親は絶対量からみると数字的に小さいので、必然的に“持っている悩み”というものに周りと差異が生まれてしまうのです。

その悩みをどこで解決すれば良いのか？となると、大体の親御さんは本に頼ります。でも、本に書いてあることはほんの一部で、その通り行動をしてみてもそううまくはいきません。発達障害は全員同じ症状ではなく、子ども一人ひとりが違うようにそれぞれ個性があるからです。ピカリンでは先生やディレクターといった専門家に相談ができ、仲間もできます。「もっと早く知っていれば良かったー」という声をよく聞きます。

正しい理解をしてくださることを願って

当事者だけではなく多くのボランティアが関わってみえるのですね

現在５家族（成人した子どもたちを持つ家族を合わせると 10 家族）でお互い支え合っていますが、他県の団体と比べるととても小規模です。これまでは主に四日市（今年度６月から亀山に活動場所が移ります）で活動していることもあって、参加家族は北勢の方がほとんどです。また、関わってくれているボランティアさんは三重県在住者が少なく、わざわざ県外から足を運んでくださっている方が多いのが現状です。私たち親だけではサポートしきれない部分もあるので、ボランティアさんの力はとても大きいですし、子どもたちも年齢が近いこともあり心から信頼しています。だからこそ、三重県内の大学や短大などの学生さんがもっと関わって、発達障害について正しく理解をしてくださると良いなと思います。

外部講師を招いてのエクササイズなど
さまざまな活動を取り入れています

専門家や当事者家族の意見を取り入れた
情報誌やテキストも発行しています

スタッフが個別に担当について学習をサポートします

発達障害って何？

発達障害は、過去の日本においては「親のしつけや教育方法の問題によるもの」と言われることが多かったのですが、現在では「脳の機能的な問題が原因」と科学的に証明され、文部科学省でも定義が表されています。

ひとくくりに発達障害といっても、さまざまなタイプがあります。

- 知的障害
- 自閉症スペクトラム障害
  （自閉症、アスペルガー症候群 等）
- 学習障害（LD）
- 注意欠陥多動症障害（ADHD）
- 発達協調性運動障害（DCD） 等

人によっては複数の障害が組み合わさっていたりする場合が多く、そういった観点から発達障害は『症状が複雑多岐にわたり、個に応じた支援が必要』と言われています。

幼少期に周りの大人が発達障害に対する知識を持ち理解が深い場合、早期発見・早期対処により障害の程度が改善されることが多々あります。
ピカリンでは子どもに対し早期対処を施し、子どもと親への生涯的サポートを行いながらも発達障害に関する知識・理解を深める啓発活動も行っています。

DATA

特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会 三重正会員団体 ピカリン

E - m a i l	mie@as-japan.jp	会　員　数	東海地区内正会員団体が14団体 登録家族は総勢 200 家族を超える
ホームページ	http://www.as-japan.jp/pikarin/		
代　表　者	辻井　正次	会　　費	入会費 10,000 円・年会費 20,000 円
団体設立年月日	平成 14 (2002) 年 2 月 5 日		

平成 25 年度　みえ市民活動ボランティアセンターの事業報告

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日の 1 年間、みえ市民活動ボランティアセンターでは、施設管理、調査事業、ニュースの発行、イベントの開催などさまざまな事業に取り組み、多くの皆様にご参加・ご協力いただきました。今号では特集として、昨年度の取り組みの一部を少しだけ紹介させていただきます。

施設管理

毎年 1 月 4 日～ 12 月 28 日の 9 時～ 22 時まで、みえ市民活動ボランティアセンターを中心にアスト津 3 階全体の「みえ県民交流センター」の施設管理・運営を行っています。

みえ市民活動ボランティアセンター利用者・利用団体数

年間利用者数	64,933 人
のべ利用団体数	3,967 団体

みえ市民活動ボランティアセンターには、県内外から市民活動やボランティアに関する情報等が多数寄せられています。それらの情報をわかりやすく分類し整理しました。
また 1 年に 1 回の利用者アンケートや年 2 回の外部評価委員会の開催を通じて、利用者の皆様の率直なご意見やご提案をお聞きし、施設運営の改善・向上の参考にさせていただきました。

NPO人材育成セミナー

県内各地域の市民活動（支援）センターや中間支援団体と連携し、県内の市民活動人材を養成するセミナーを行いました。

第 1 回　2013 年 10 月 24 日
お金がない！会員がいない！を解決するヒント勉強会

共　催　いなべ市市民活動センター
とういんボランティア市民活動支援センター
NPO 法人みえきた市民活動センター

第 2 回　2014 年 2 月 1 日
市民活動・NPO の活動の見せ方・広げ方

共　催　鈴鹿市、亀山市
NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう
鈴鹿 NPO サポートセンター

第 3 回　2014 年 3 月 7 日
住民同士がささえあう絆づくりのヒントとは？

共　催　四日市市なやプラザ運営委員会

【成果】各地域の課題に直結したテーマであったことから、注目度は高く、地域から多くの参加者が集まり、かつ高い評価もいただきました。

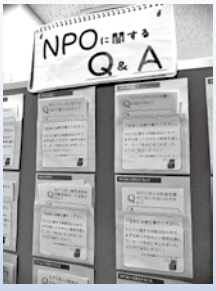
中間支援団体のあり方に関する研究会

三重県では「新しい公共」やこれに基づく「協創」の三重づくりを目指す中で、中間支援団体の重要性が指摘されています。改めて中間支援団体の課題や役割を互いに学び合うことで、その「あり方」を模索する研究会を開催しました。

第 1 回　**NPO は何をやっているの？**　コーディネーター：松井真理子
第 2 回　**NPO の財源と中間支援組織**　コーディネーター：服部則仁
第 3 回　**民と民をつなぐためには**　コーディネーター：米山哲司
第 4 回　**NPO が社会を変える～政策提言機能をどう果たすのか**　コーディネーター：松井真理子
第 5 回　**三重県中間支援組織実態調査の結果分析と今後の展望**　コーディネーター：松井真理子

【成果】行政関係者や中間支援団体だけでなく、事業系 NPO 法人の代表や企業の経営者および CSR 担当者、県外 NPO 法人スタッフなどが集まり、さまざまな角度や立場から意見交換がなされました。

NPO相談



昨年度は定期的な相談会を実施するのではなく、随時スタッフが対応することで相談者にとってより利用しやすい形にしました。

【成果】難しい相談は、他のスタッフや三重県 NPO 班と連携を行うことで相談者の満足を得られるように努めました。
日々の相談業務の中でよくある相談を「NPO 相談 Q&A カード」として作成し、利用者の皆様に気軽に持ち帰っていただけるように、アスト津 3 階に設置しました。
今後も更に相談対応の充実を図っていきたいと思います。

市民活動ボランティアニュースの発行・配布

県内の市民活動やボランティアに関する情報の収集・発信を行い、その情報を県内外の多くの方々に知ってもらうとともに、市民活動団体やボランティア団体の自立や活動支援を行うことを目的としています。

【成果】毎月 10,000 部を発行し、各号 1,337 カ所に発送しました。
昨年度に引き続き、より多くの方に読んでいただけるようデザインや中身をリニューアルしました。協創のヒント集から記事を抜き出した「クローズアップ協創のヒント集」、NPO に関わる方の 1 日を切り取った「活動のぞき見隊」、NPO に関わるきっかけをインタビューした「マイ NPO 物語」等を追加しました。同じく新たに加わった「三重ぐるり」のコーナーでは、三重県内各地域（北勢、中勢、南勢、伊賀、東紀州）の 9 つの中間支援団体と連携し記事を提供していただくことで、ネットワークの活用と多くの人へ幅広い団体の紹介をすることができました。

多文化理解イベント Hand in Hand! みえの地球市民「みえの国際貢献」ダイレクトリー作成 世界のＮＰＯ・ボランティア活動・地域コミュニティ講座

多文化共生社会の実現のため、在住外国人との共生社会づくりに向けて理解いただく機会となるイベント「Hand in Hand! みえの地球市民」、県内で国際的な活動を行っている団体を把握する「みえの国際貢献ダイレクトリー」、三重県在住の諸外国の方に祖国のＮＰＯや地域コミュニティのあり方などを紹介していただく「世界の NPO・ボランティア活動・地域コミュニティ講座」を開催しました。

【成果】「Hand in Hand!」では、県内で留学生の多い三重大学、鈴鹿国際大学、四日市大学と連携を行い、学生自らが主体となった企画を学内外で実施することにより地域での広がりをつくっていくことができました。アスト津会場では来場者と留学生の積極的な交流もあり満足度の高い企画となりました。「国際貢献ダイレクトリー」は、８０団体以上の団体情報を掲載することで活動の「みえる化」を図ることができました。「地域コミュニティ講座」は２回開催し、他講座とは異なる層に参加していただいたことでネットワークの幅を広げることができました。

各市町中間支援団体等との連携による情報収集、データの更新

三重県内の市町や市民活動（支援）センターと連携して、市民活動団体情報の整理と共有を行いデータベース化して情報公開・発信をしていくことで、市民活動に参画する人や組織を増やす機会を提供することを目的としています。

【成果】データベースの登録団体数は平成 24 年度より 207 団体増加し、2893 団体となりました。三重県、16 の市町、13 の市民活動（支援）センター、21 の社会福祉協議会、1 つの民営センターと連携しました。

市民活動・NPO 月間協創シンポジウム

市民活動・NPO 月間として、12 月に三重県全域で NPO に関する合同キャンペーンを行い、県民の NPO への関心を高める取り組みを行いました。1 月にはシンポジウムを開催しました。詳細は、市民活動ボランティアニュース 2014 年 2 月号をご覧ください。

NPO グレードアップセミナー

NPO 法人に関する制度改正、NPO の資金づくり等、重要なテーマについて外部講師を招いてセミナーを行いました。平成 25 年度のテーマは「認定 NPO 法人」、「助成金」、「寄付」。

2013 年 10 月 8 日　講師：三重県 NPO 班職員　他
認定 NPO 法人の申請と運営を考える

2013 年 12 月 13 日　講師：荻上 健太郎さん（日本財団）
一度はホンキで挑戦してみたい団体のための助成金セミナー

2013 年 12 月 17 日
講師：佐藤大吾さん（ジャスト・ギビング・ジャパン）
ホンキで寄付を集めて活動を広げたい団体のための寄付セミナー

【成果】認定 NPO 法人に関するセミナーでは、実際に認定を取得された団体に現場の生の声を聞かせてもらうことができました。助成金セミナーでは審査する側の視点を、寄付セミナーでは実践的な 1 年計画をつくるワークを行いました。

調査研究

三重県内の公設公営、公設民営、民設民営の中間支援団体にアンケート調査を行いました。調査の集計結果を「第 5 回 中間支援団体のあり方に関する研究会」で報告し議論しました。平成 26 年度にはこのデータをもとにヒアリングをし、より精度の高いデータにしていきます。

募集とご案内

【お知らせ】
本コーナーは誌面リニューアルのため、７月号を最後になくなります。
お寄せいただいた情報は弊センターホームページでのご紹介のみとなります。

大杉谷移住・交流促進事業
大杉谷移住お試しツアー

地域をゆっくり見て、聞いて、感じていただく機会です。将来の暮らしを見据えた地域情報をお伝えします。

日　時　６月７日（土）11：30 ～　６月８日（日）14：00
場　所　大杉谷自然学校 他（大杉谷地区内）
対　象　移住や田舎暮らしを検討中の方（一人でも、家族でも参加可能）
参加費　3,000 円（1 日目昼～2 日目昼の食費等を含む）
※ 1 歳以下は保険代のみ 700 円
募集人数　15 名程度
応募方法　「参加希望者全員の名前・性別・年齢・住所・電話番号」を明記し、E - mail 、Tel、Fax にて申し込み。
問合せ先　NPO 法人 大杉谷自然学校
〒 519-2633　三重県多気郡大台町久豆 199
Tel 0598-78-8888　Fax 0598-78-8889
✉　info@osugidani.jp
ＨＰ　http://osugidani.jp/ijyusokushin.html

助成金を見極め、活用するための
リアル助成金講座

本セミナーでは、実際の助成プログラムの状況、自分たちの団体の分析、助成金を本当に活用することなど、「申請する（どう攻める?）」、「活用する（もらった後にどう活かす?）」という 2 つの視点から、お金を得るためだけではない「リアルな助成金の活用」の方法の全貌を学びます。

講　師　山田 泰久さん　NPO 法人 CANPAN センター　常勤理事
日　時　６月 13 日（金）13：30 ～ 16：30
場　所　みえ県民交流センター　交流スペース（アスト津 3 階）
対　象　助成金の基礎的な知識のある方、これまでに民間助成金を獲得したことのある団体、市民活動（支援）センター職員の方など
参加費　1 人 300 円
※同じ団体から複数参加の場合は、1 人 200 円
応募方法　「参加者全員の氏名・団体名・電話番号・メールアドレス」を明記し、E-mail 、Tel、Fax または直接窓口にて申込み。
応募締切　６月 10 日（火）
主　催　NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター
問合せ先　みえ市民活動ボランティアセンター
〒 514-0009　津市羽所町 700　アスト津 3 階
Tel 059-222-5995　Fax 059-222-5971
✉　center@mienpo.net
ＨＰ　http://www.mienpo.net/center/

スマイルフェスタ in いなべ
市民とＮＰＯ・ボランティア団体の交流の場

いなべ市内を中心に活動する市民活動団体・ボランティア団体の活動紹介および活動発表の場として、今年で5年目の開催です。今回は 80 あまりの団体が参加します。

日　時　６月 21 日（土）13：00 ～ 15：30　開会式・舞台発表
６月 22 日（日）10：00 ～ 14：30　団体の活動紹介など
場　所　北勢市民会館　さくらホール（いなべ市北勢町阿下喜）
参加費　無料　※申込み不要
問合せ先　Tel 0594-74-5806　Fax 0594-74-5834（近藤）
✉　j-kondo00@city.inabe.mie.jp
ＨＰ　http://e-katsu.city.inabe.mie.jp/

ビデオ上映会
再稼働を許さず、全原発を廃炉に！

「被曝の時代を生きる」（90 分）…2013 年 9 月 15 日に北海道で行われた小出裕章さん（京都大学原子炉実験所助教）の講演会ビデオ
・福島第一原発は今どうなっているのか?
・事故の責任は誰にあるのか?
・汚染水漏れはなぜ起こるのか?・どうなっていくのか?

日　時　７月６日（日）13：30 ～ 16：00
場　所　みえ県民交流センター　ミーティングルーム
問合せ先　とめよう戦争への道！ 百万人署名運動・三重連絡会
Tel 090-2617-0721（加藤）

研修会・学習会を企画するみなさんへ
～人権の学び、応援します！～

「人権について学びたい」と考えている地域の研修などに講師を派遣します。NPO 等の研修会、まちづくり協議会や市民・町民学習会、自治会や自主防災会の研修会、子育てサークル…などでご活用いただいています。
＊研修内容はご要望に応じます。
＊講師、アドバイザーの派遣にかかる費用は県が負担、研修会会場の準備は申込み者が手配をお願いします。

対　象　まちづくりの協議会や自治会、PTA、NPO、企業など、人権のまちづくりを進めようとする県民ならどなたでも
応募締切　先着順、定数になり次第締め切り
問合せ先　三重県環境生活部　人権課
Tel 059-224-2278　Fax 059-224-3069（櫛田）
✉　jinken@pref.mie.jp
ＨＰ　http://www.pref.mie.lg.jp/JINKEN/HP/
委託先　NPO 法人 市民社会研究所

助成金情報

助成金情報は、弊センターホームページでも多数ご紹介しております。
ＨＰ　http://www.mienpo.net/center/

・**明治安田生命　「地域支え合い活動 助成プログラム」活動立ち上げ資金・備品購入資金の助成**　６月 30 日（月）必着
・**伊藤忠記念財団　平成 26 年度 子ども文庫助成案件募集**　６月 30 日（月）当日消印有効
・**朝日新聞文化財団　文化財保護活動への助成**　６月 30 日（月）必着
・**太陽生命厚生財団　社会福祉に関する事業・研究助成**　６月 30 日（月）必着
・**ヨネックススポーツ振興財団　平成 26 年度助成金（後期）募集**　６月 30 日（月）当日消印有効

クローズアップ 協創のヒント集

県民が力を合わせることによって、地域社会で「今までできなかったことができるようになる」ために大切なヒントを毎月ご紹介します。

ヒント12　地域との間に顔の見える関係をつくる

【ヒント12】

企業の社会貢献といっても、いきなりできるものではありません。何をすればいいのかも、忙しい仕事の中ではなかなかみつけにくいものです。そこで、まずは企業経営者自身や組織の取組として、地域との間に積極的に出ていく機会をつくることで、顔の見える関係をつくることに取り組みましょう。顔の見える関係の中から、さまざまな社会貢献の種がみつかることが多いのです。

企業経営者は、他の企業が社会貢献活動でよい成果をあげていると知ると、「自分たちも」ということになりやすいようです。一つの企業が地域とつながることが、他の企業にも広がる原動力となるでしょう。

【ヒント12の事例】

①経営陣がNPOと交流「三重銀行NPOサポートファンド」（四日市市）　実施主体 株式会社三重銀行（企業）
②社員の社会貢献活動を支援する「デンソー大安製作所」（いなべ市）　実施主体 株式会社デンソー大安製作所（企業）
③地域から必要とされる企業を目指す「ぎゅーとら」（伊勢市ほか）　実施主体 株式会社ぎゅーとら（企業）
④企業との連携による“出張”理科授業（四日市市）　実施主体 市内企業14社

引用：『夢をかたちにするまちづくり～「新しい公共」のヒント集～』（三重県・新しい公共円卓会議／2013年3月発行）

活動のぞき見隊 Vol.11

課題を解決するアイディアはちょっとしたコツで生まれてくる。

アイディア・ラボ〔β〕をのぞき見たい！

「そんなアイディアは使えない」「新しいアイディアが必要なんだ」と言われて困ったことはありませんか？仕事や生活の中でアイディアが必要とされているのに誰もその出し方を教えてくれない。それはNPOも企業も行政も同じですよね。そんな中「こう考えたらアイディアって出しやすくなりませんか」とアイディア出しの体験と気づきの場を提供されているのがアイディア・ラボ〔β〕の存在です。そこでアイディアに枯渇している私も、さまざまなセクターの方と意見交換しながらアイディア創出法が学べる15回目のワークショップ「β 015」に参加してきました。

記者の雑感　記者・川北

5分で課題を解決するためのアイディアを生み出し、30秒で共有するという訓練を何度もしているうちに、どんどんアイディアを出すコツがつかめてきました。またゲーム制を取り入れたシステムと、批判されにくいセイフティな場も相まって実用的でおもしろいアイディアが湧き出てきます。さらにNPO、企業、行政、学生などさまざまな立場の人と同じ課題について意見交換したことでいままでにない発想も生まれました。多様な繋がりの中で、少しのコツを使って新たなものを生み出す。NPOだからこそできる可能性をグンッと広げる仕組みをのぞき見しました。

4月25日のファシリテーターはアイディア・ラボ〔β〕副代表の米山哲司さん。1グループ5～6人に分かれてスタートです。

今回は「Joint × Joint（ジョイント・ジョイント）」というオリジナル研修ツールを活用しました。「自分カード」「パートナーカード」「テーマカード」の3種類から成り立っていて、各カードを引くことで、自分の立場、協働相手、課題を決め、その状況下の中で解決のアイディアを出します。

同じカードを引いても、組織の立場が違えば考え方も違います。最初は戸惑っていた参加者もどんどんコツがつかめてきたのか、たくさんのアイディアとたくさんの笑顔、そしてたくさんの意見交換が会場中で生まれました。

自分の強みとパートナーの強みを考え課題解決を導くツールは、1つの団体での限界、そして協力することで広がる可能性を学ぶことができました。最後は代表の池山敦さんから優勝者の方へトロフィーなどが贈呈されました。これは場の空気づくりを演出する、遊び心のアイテムとのことでした。

お詫びと訂正

2014年5月号「活動のぞき見隊」にて連絡先に間違いがございました。
【誤】059−271−0078　【正】059−271−9978
誤表記の団体様には、不手際を深くお詫び申し上げます。
大変申し訳ございませんでした。

マイNPO物語 Vol.12

三重映画フェスティバル実行委員会　事務局長　田中忍さん（津市在住）

プロフィール

地元金融機関に勤める傍ら事務局長として活動している。津フィルムコミッション「ロケっ津」のメンバーでもある。高校生の頃から映画が大好き。大学時代は、京都の太秦映画村で、エキストラとして多数の映画に出演。

2003 年、三重県ゆかりの映画監督小津安二郎の生誕 100 年を記念する「三重映画フェスティバル 2003」を開催しました。「三重と映画」をテーマに、当団体代表である映画評論家の吉村英夫さんを中心に、「映画が好き!」という仲間約 50 名が、2 年がかりで準備をしました。皆さまのご支援をいただき、三重県初となる本格的な映画祭となりました。

その後、このようなイベントを続けて欲しいという有難いご意見をいただき、年 1 回 1 日～2 日の映画祭を開催しています。

昨年は小津安二郎監督生誕 110 年を記念して「ぐるっと三重上映キャラバン」を 25 カ所で開催しました。また、東日本大震災への想いをずっと抱えていた当団体は昨年、震災に遭われた陸前高田市在住の菅野啓祐さんをお招きして、「防災シンポジウム&幸福の黄色いハンカチ」を 3 カ所で開催しました。願いをこめて自宅跡に黄色いハンカチの塔を建てた菅野さんと、その写真をご覧になった山田洋次監督、また監督と友人である吉村代表とのご縁があって、このような形で上映することができました。

「一期一会」の言葉が好きですが、いろんな人との出会いに感謝しています。

現在は 40 代～ 60 代のメンバーが中心となって活動しています。映画選定の際、「過去、現在、未来」のグランドテーマがあるのですが、未来に繋がる若い人にも活動に関わって欲しいと思っています。高校生、大学生の皆さん、1日でもいいのでボランティアとして一緒に活動しませんか。映画はおもしろいですよ!

NPO・ボランティア 私の一冊

みえ県民交流センターの図書・資料コーナー等から、スタッフがおすすめするＮＰＯやボランティアに関するさまざまな書籍類をご紹介します。

おしゃれなエコが世界を救う
女社長のフェアトレード奮闘記
日経 BP 社
サファイア・ミニー

最近、「フェアトレード」のコーヒー豆や雑貨等を置いているところが多くなってきていますが、日本人のフェアトレードの認知度は 25.7%で、世界と比較すると低いそうです。著者は 18 歳のとき、フェアトレードと出会います。物を購入する時は、「地球にやさしく、人にやさしい」を基準に選んでいた著者は、発展途上国の生産者を支援するフェアトレードの製品を購入してきました。来日した 1990 年、日本ではほとんど知られていなかったフェアトレードを広めるために、日本人の生活や好みにあった商品を作るしかないと自分でデザインをします。現地の生産者を直接訪ねて共同開発をする行動力とひらめきのすごさには驚きました。この本はフェアトレード専門店「ピープルツリー」を日本最大にするまでの著者の奮闘記です。

社会をよりよく変えたいと思っている方、具体的に何をどうすればいいのか考えている方、この本には多くのヒントがありますよ。（田中）

認証した特定非営利活動法人

（2014 年 4 月 10 日～2014 年 5 月 9 日認証分）

①法人名②主たる事務所の所在地③活動分野④認証年月日⑤代表者

①特定非営利活動法人　LCC
②桑名市多度町小山 2677 番地 6（33 街区 6）
③保健、社会教育、まちづくり、災害、地域安全
④ 2014 年 4 月 23 日
⑤理事長　高川 篤

①特定非営利活動法人 かざみどり
②鈴鹿市石薬師町 40 番地の 1
③保健、人権、職業能力、障がい者の自立と共生社会
④ 2014 年 4 月 25 日
⑤理事長　徳田 小百合

①特定非営利活動法人 ともだち
②伊賀市下友田 2880 番地の 1
③保健、まちづくり、地域安全、子ども
④ 2014 年 4 月 25 日
⑤理事長　高石 千恵

①特定非営利活動法人 ベジノワmie
②津市高茶屋小森町 1707 番地 405
③まちづくり、農山漁村・中山間地域、子ども、情報化社会、経済活動、職業能力
④ 2014 年 4 月 25 日
⑤理事長　中辻 浩

①特定非営利活動法人 A−Connection
②度会郡大紀町阿曽434番地2
③保健、社会教育、まちづくり、観光の振興、農山漁村・中山間地域、学術、環境、災害、地域安全、人権、国際、男女、子ども、情報化社会、経済活動、職業能力、その他、地域防災活動、障がい者の自立と共生社会、多文化共生社会
④ 2014 年 5 月 7 日
⑤理事長　尾花 隆司

みえぎんNPOローン　好評取扱中
委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資！
対象：三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するＮＰＯ法人
※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。
詳しくはTEL059-354-7130（審査部）まで
URL：http://www.miebank.co.jp
"地域とともに　みなさまとともに"
三重銀行

転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者：みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

みえ市民活動・ボランティアニュースはこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】〈津　市〉みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学　〈桑名市〉桑名市市民活動センター　〈いなべ市〉いなべ市市民活動センター　〈東員町〉とういんボランティア市民活動支援センター　〈四日市市〉四日市市市民活動センター/四日市大学　〈亀山市〉亀山市市民協働センター　〈鈴鹿市〉市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学　〈松阪市〉松阪市市民活動センター　〈伊勢市〉いせ市民活動センター/皇學館大学　〈志摩市〉阿児アリーナ/横山ビジターセンター　〈名張市〉名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター　〈伊賀市〉伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所　〈尾鷲市〉東紀州コミュニティデザイン　〈明和町〉めいわ市民活動サポートセンター　〈南伊勢町〉南伊勢町町民文化会館　〈紀宝町〉紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JAバンク各店/メディカル一光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関（地域防災総合事務所[桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀]　地域活性化局[南勢志摩、紀北、紀南]）/三重県栄町庁舎（情報公開窓口）/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター『フレンテみえ』/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協　賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行 第三銀行
三重銀行
百五銀行 FRONTIER BANKING
健全・安心・貢献 東海ろうきん
JAバンク 三重県下JA／JA三重信連
株式会社 阪本事務機

VEGETABLE OIL INK　環境にやさしい植物油インキを使用しています。

発行／みえ県民交流センター指定管理者
みえ NPO ネットワークセンター
〒514-0009　津市羽所町 700 番地　アスト津 3 階
TEL.059-222-5995　FAX.059-222-5971
E-mail center@mienpo.net　ホームページ http://www.mienpo.net/center/